

平成 2 0 年度事業報告書



東京都谷川副知事・2016 東京五輪招致委員会表敬訪問 (H21.3.6)



JIQ9100/QS9100 認証取得 (5 社)

財団法人 飯伊地域地場産業振興センター

平成 2 0 年 度 事 業 概 要

総 括 事 項

(地域の動向)

平成 20 年度の地域経済は、前年後半から停滞感が表れていた景気が米国発の金融危機が表面化した 9 月以降、機械・電機系業種を中心に深刻な落ち込みとなり関連する多くの業種に影響が出ています。

食品など生活関連業種においては、原料値上がりによるコストの圧迫を払拭されてはいない向きもありますが比較的景気の変動は少なく一部には好調な企業も見受けられます。

(当センターの業況)

このような状況下において、各種事業は順調に実施することが出来ました。

需要開拓・人材養成・産業クラスター等々の振興事業は、企業におけるそれぞれの取り組みに役立てられているものと確信しています。

しかしながら、施設利用事業では景気の後退による「展示会等営業活動」や「人材確保のための説明会」等の需要が減少し、前年比 2,900 千円余の減収となりました。

減収の要因の一部には、施設は利用されているものの財団自身の事業実施等の施設利用が増加したことにより収入に結びつかない事情もあります。特に前年度、和室を改修した学習室は使い勝手が良くなったことから、講座、セミナー等の利用が増加し、人材養成事業など収入に繋がらない利用が大部分を占めています。

一方、前年度に設備の老朽化による故障発生等により減収となった EMC センターでは、前年比 6,844 千円の増収と回復しました。

工業技術センターでは各種分析、解析の相談が増加し、機械金属関係だけではなく食品関係にも利用が広がり、前年比 370 千円の増収とすることができました。

(施設整備状況)

補助事業により、工業技術センターへ有機物成分分析のための「フーリエ変換赤外分光光度計」を、また、EMC センターへノイズ発生レベルの測定で国際規格に合致させるため、「EMI テストレシーバーシステム」を設置することができました。このことにより高精度な分析が可能となりました。

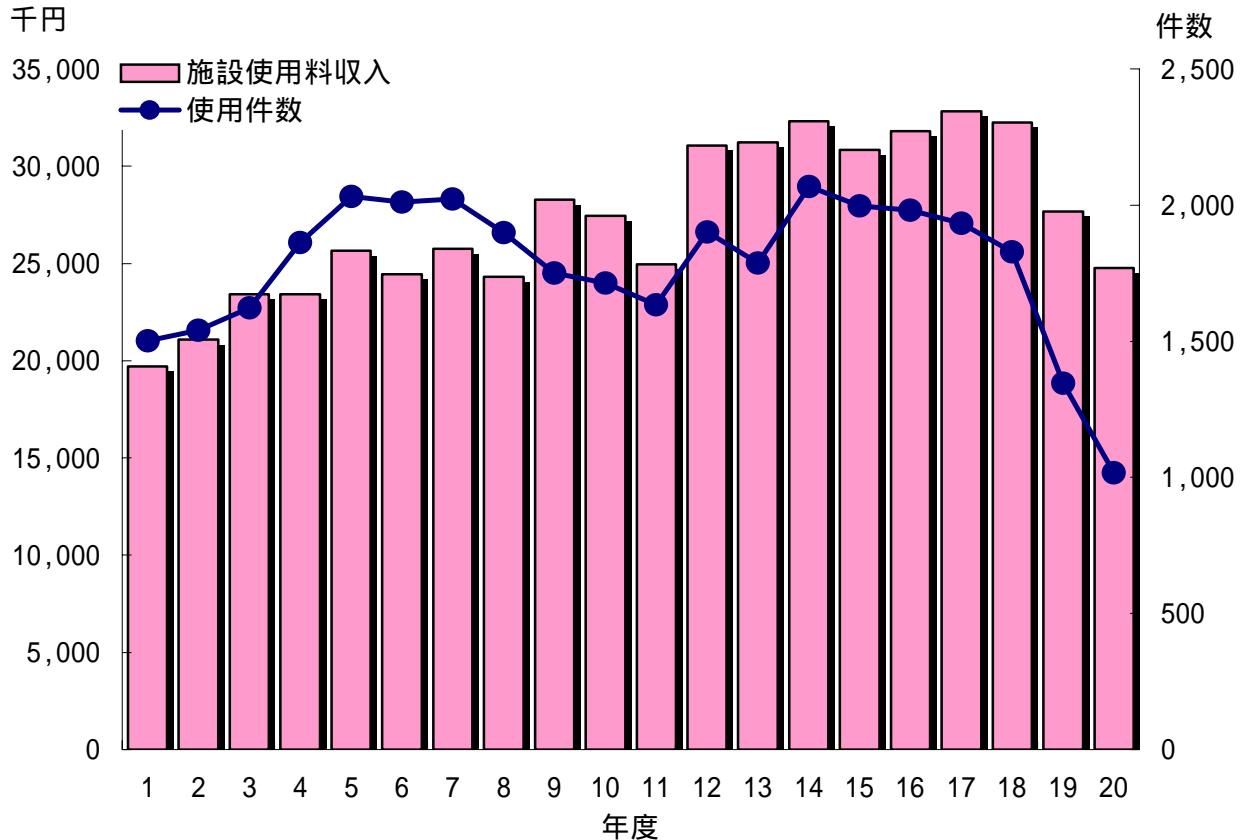
事業概要

1. 施設利用事業

(1) 「産業センターIIDA」貸館事業

貸館事業は、使用件数、使用料収入ともに減少していますが、景気の後退による「展示会等営業活動」や「人材確保のための説明会」等の需要の減少等が要因として考えられます。なお、収入には直接結びつかない産業技術大学等の人材養成事業、大学連携事業、産業クラスター事業等の自己事業での施設利用は増加しています。

施設利用年度別利用状況推移グラフ



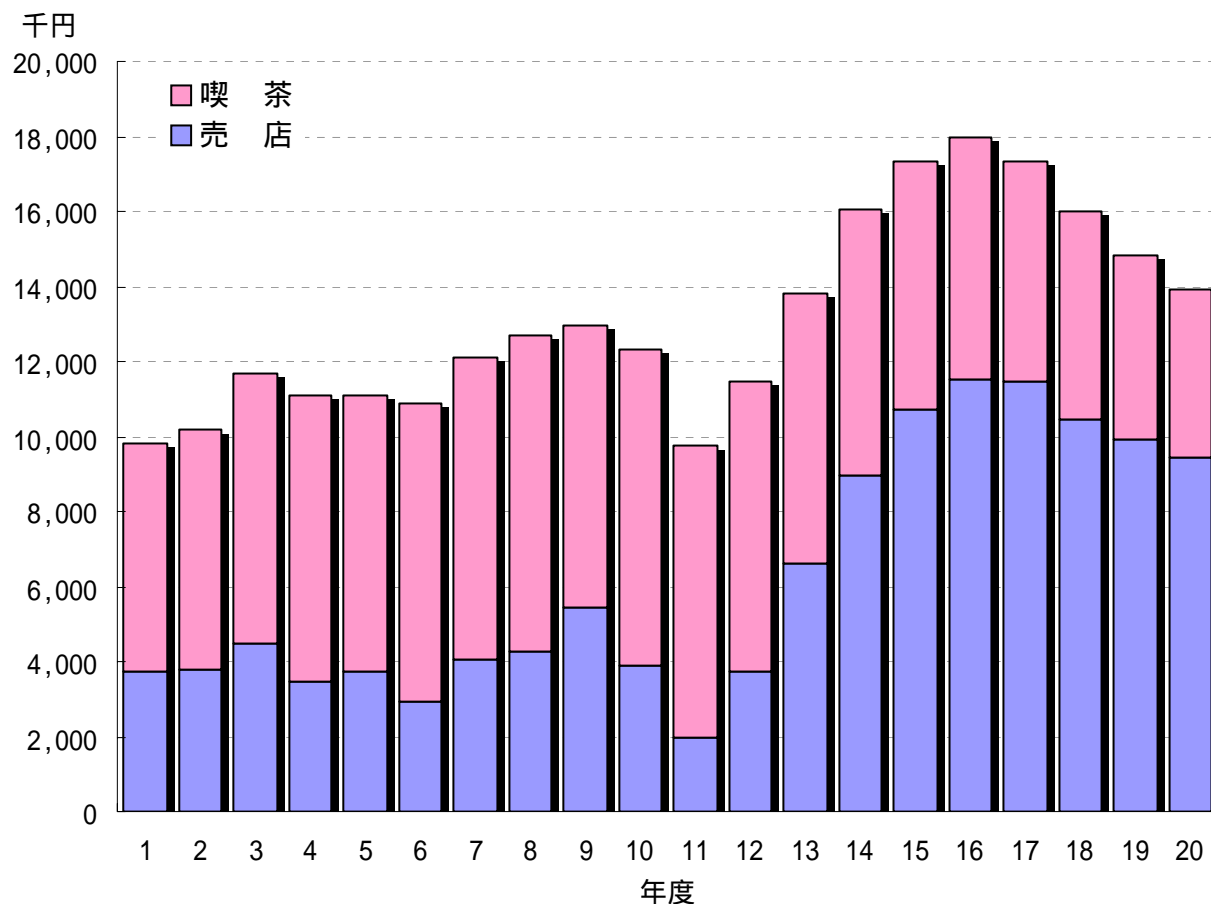
施設利用年度別利用状況の推移

年度	使用件数	入場者数	施設使用料収入(円)	年度	使用件数	入場者数	施設使用料収入(円)
元	1,501	116,420	19,697,163	11	1,634	71,848	24,965,758
2	1,541	112,282	21,082,684	12	1,901	80,859	31,052,707
3	1,623	100,535	23,417,654	13	1,788	73,223	31,216,362
4	1,862	130,967	23,428,761	14	2,068	73,990	32,317,377
5	2,032	103,329	25,663,835	15	1,998	73,092	30,852,900
6	2,011	128,214	24,441,005	16	1,982	68,225	31,805,844
7	2,022	116,997	25,746,139	17	1,934	67,407	32,838,760
8	1,898	102,995	24,299,752	18	1,829	68,632	32,234,160
9	1,751	74,269	28,266,485	19	1,345	46,683	27,686,966
10	1,713	72,886	27,458,192	20	1,017	45,355	24,760,105

(2) 売店・喫茶・展示室事業

販売額及び喫茶収入は減少傾向にあります。展示と共に、売店では春のお花見フェアの開催や、市役所庁内等で中元・年末期など地場製品の販売・PRを行い、関係事業者の支援に資するよう努めています。

売店・喫茶年度別利用状況推移グラフ



売店・喫茶年度別利用状況の推移

年度	売店	喫茶	合計(円)	年度	売店	喫茶	合計(円)
元	3,749,354	6,065,712	9,815,066	11	1,948,684	7,796,392	9,745,076
2	3,811,740	6,388,572	10,200,312	12	3,727,830	7,732,047	11,459,877
3	4,472,295	7,199,857	11,672,152	13	6,591,516	7,219,090	13,810,606
4	3,455,305	7,663,620	11,118,925	14	8,960,376	7,113,263	16,073,639
5	3,742,895	7,328,064	11,070,959	15	10,726,588	6,604,289	17,330,877
6	2,924,735	7,969,072	10,893,807	16	11,506,225	6,471,476	17,977,701
7	4,055,981	8,062,191	12,118,172	17	11,453,982	5,890,438	17,344,420
8	4,258,950	8,414,452	12,673,402	18	10,446,672	5,532,643	15,979,315
9	5,456,515	7,498,621	12,955,136	19	9,924,580	4,907,551	14,832,131
10	3,867,001	8,443,445	12,310,446	20	9,414,192	4,489,200	13,903,392

2. 新商品開発能力育成事業

(1) 研究開発支援

地元企業での案件を工業技術センターが中心となり研究開発支援等を積極的に行い、地元企業のニーズに即した取り組みを行いました。

問題原因の調査と対策支援により究明した事例

- ・クリーンルーム内異物調査と対策
- ・リニアモータ接着剥離原因の究明と対策
- ・パイプ垂鉛メッキ不良の原因究明と対策

支援中の研究開発事例

- ・バイオマスを原料とする軽油代替燃料製造
- ・排水中のフッ素除去技術の開発
- ・ヘアカットブラシの製造研究
- ・微生物代謝産物の利用に関する研究開発

相談及びその他の案件

- ・加熱蒸気による炭化技術の開発
- ・マイクロ・ナノバブル技術の利用

3. 需要開拓事業

(1) 販売促進事業

地場産品を地域内外へPRしながら需要の開拓を図りました。

地場産お花見フェア

当センター事業部を中心に、桜の開花時期に合わせて地場産屋台村やさくらのお菓子コーナー等を設置し、地域内の方へ地場産品のPRを行いました。

期日：4月12日(土)～13日(日) 会場：飯伊地域地場産業振興センター
ツアー・オブ・ジャパン南信州ステージ

期日：5月21日(水) 会場：松尾総合運動場駐車場

飯田市役所出張販売

期日：7月25日(金)、11月28日(金)、12月12日(金)

会場：飯田市役所地下売店

いいだ人形劇フェスタ

期日：8月2日(土)～3日(日)、8月8日(金)～10日(日) 会場：中央公園

全国地場産品フェア

期日：8月8日(金)～10日(日) 会場：高岡地域地場産業振興センター

全国特産品フェア

期日：8月13日(水)～17日(日) 会場：富士川地域地場産業振興センター

全国自慢の逸品フェア

期日：10月25日(土)～26日(日) 会場：十日町地域地場産業振興センター

南信州獅子舞フェスティバル

期日：10月26日(日) 会場：鼎さわやかロード

まちなか賑わいフェスティバル

期日：11月3日(月) 会場：りんご並木

全国ふるさと自慢フェア

期日：11月8日(土)～9日(日) 会場：山口・防府地域工芸地場産業振興センター



全国自慢の逸品フェア



市役所出張販売

(2) 地域ブランド構築事業

販路開拓支援(海外)

飯田市の台湾チャレンジ事業と連携し、台湾における販売チャネル開拓の道筋を構築するために、台湾の商社(友士有限公司)を通して販促及びPRを実施しました。台湾SOGOにおける「南信州物産展」「南信州お菓子フェア」の開催、和食店向けのDMを制作するなどの販路開拓の取り組みを行いました。また、中国(上海)市場への開拓の取り組みを模索するため、JETRO長野主催の「信州“食”の中国(上海)市場開拓ミッション」に食品企業5社が参加しました。

・海外市場開拓研究会4回開催

ブランド化研究会の活動支援

南信州ブランド漬物研究会

これまでの活動成果を今後を活かし、南信州ブランド全体の動きとリンクしながら、新たな連携による販路拡大を図っていくための「朝食プロジェクト」の立ち上げに向け準備を行いました。

菓子ブランド化PR研究会

昨年度に引き続き特徴あるお菓子づくりを目指し、地産地消による小豆づくりとその小豆を使った商品開発に取り組みました。また、桜の開花時期にあわせて「南信州桜のお菓子」パンフレットを作成しPRを行いました。

東京五輪招致関連飯田水引PR事業(元気づくり支援金事業)

2016東京五輪招致ロゴに「結び」をテーマに「水引」がモチーフに採用されたご縁から、日本一の生産量を誇る飯田水引の産地として、東京五輪招致活動に協力しながら、飯田水引のPR活動を行いました。

・各種イベント等への出展参加による飯田水引PR

・東京都庁等への水引オブジェの展示PR

・招致応援リーフレットの制作

・自治振興センター、市関係施設及び管内町村等への招致のぼり旗の掲出

南信州ブランド確立への取り組み

南信州ブランド推進協議会を中心に、地域内の地域ブランド推進グループ相互の情報交換や地域イメージ統一のための方向性等を探る活動を行いました。

(3) 企業間連携による内需拡大

地域内食品系企業へ機械系企業が訪問を行い、お互いを知ることで、地域内需用の拡大を図り、地域内経済の循環を目指す取り組みを行いました。

4. 人材養成事業

(1) 飯田産業技術大学(通常講座)

今年度は1講座の受講時間受講日数を増やし内容を更に充実し昨年より日数では20日間増の151日、総開催時間では206時間増の671時間と、内容の濃い講座を38講座実施し、参加企業は25増の136社、全受講者数延べ1,548人が参加しました。

昨年の開催時間×延べ受講者数の割合を比較してみますと平成19年度が38,659人、平成20年度が38,536人となり、長時間・長期間に渡る講座にも多くの方に受講いただきました。

技術講座 延べ461時間 延べ受講者数802人

機械図面基礎コース/CAD初・中級コース/MasterCam初・中級コース/電気・電子初級コース/機械加工コース/公差設計・解析コース/旋盤・フライス加工初・中級コース...他

経営管理講座 延べ191時間 延べ受講者数654人

品質管理コース/ISO9001内部監査員養成コース/設計者向けデザインCAE活用コース/後継者塾/知的財産戦略コース/ISO14001内部監査員養成コース/経営計画書作成指導/生産技術・生産管理コース/コーチング入門/経営者セミナー/問題解決手法/戦略的5S実践セミナー/TSS(TOYOTA Sewn-productsmanagement System)研修...他

特別講座 延べ19時間 延べ受講者92人

新入社員コース/情報セキュリティコース/商品パッケージデザイン・ネーミングコース



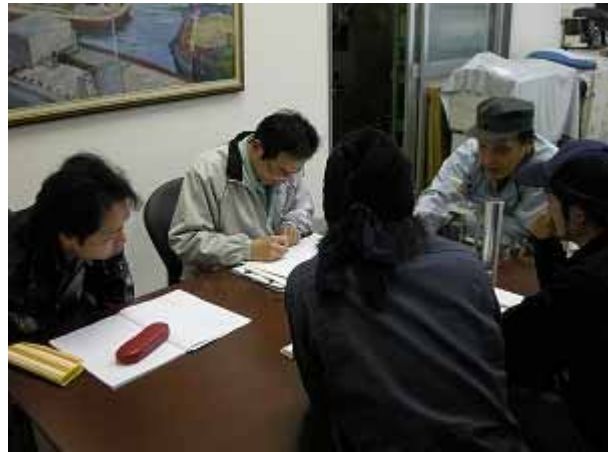
マーケティング戦略講座



現場生産改善(TSS)講座



旋盤フライス加工講座



ワイヤカット放電加工講座

(2) 緊急セミナー

中小企業緊急雇用対策として新たに必要となる技術の付与、レベルアップを図り労働者の職業能力の一層の向上を図っていただくために緊急セミナーを2回開催しました。

今後も各事業所からの要望に沿った緊急セミナーの企画及び講師の紹介や会場等のサポートを行い各事業所の企業力アップ及び景気回復後の事業展開につなげて行きます。

(3) 産学官連携推進事業

食と農の研究フォーラムの開催

信州大学と明治大学が「食と農」をテーマに、地域の活性化を考える講演会と最先端の研究成果や大学の取り組みを紹介する分科会を行うフォーラムを開催しました。

期 日：3月6日(金)

会 場：JAみどりの広場

内 容：信州大学・明治大学による講演会、分科会

参加企業：30社 参加者数 50人

EMCシンポジウム I I D A 2008

9回目となるEMCシンポジウム I I D A 2008では、インバーター電源の諸問題と自動車技術の最新動向について業界等で指導的な立場の方々の講演、また、講師の方々及び技術者間との情報交流会を行いました。地元企業参加によるEMC委員会を組織して企画から運営までを行いました。

テ ー マ：「インバーター電源の諸問題と自動車技術の最新動向」

期 日：10月30日(木)～31日(金)

会 場：シルクホテル 2階 錦の間

講 師：(財)電力中央研究所 上村敏氏、新電元工業(株) 池田克弥氏

三菱電機(株)中津川製作所 西尾直樹氏、トヨタ自動車(株) 寺谷達夫氏 他

参加者：100人



食と農の研究フォーラム



EMCシンポジウム

5. 地場産業活性化事業

(1) 各種地場産業団体、グループへの活動支援

各種地場産業団体等の活動を推進するため必要な支援を行いました。

(2) 企業体質強化事業

5S導入実践事業(飯田商工会議所、商工連下伊那支部連携事業)

地域企業の生産力を高めるため5S導入実践を行いました。

期 日：6月7日(戦略マップ作成講座)～2月18日(実践発表大会)

この間各社を6回巡回し個別指導

講 師：5Sアジア事務局代表 中小企業診断士 棚田譲二氏

参加企業：5社



巡回指導



実践発表大会

(3) 情報収集提供事業

主にE-mail、Faxを利用し、有益な各種情報を発信しました。

また、飯田ケーブルテレビと協調し、“たんたん探検地元企業”の番組制作を行い、地元企業の優れた製品・技術等を紹介し、地域住民に理解と協力を得るようにしました。あわせて、DVD化して管内小・中学校、高校等へ配布し地域産業への関心を高めてもらうために有効活用を依頼しました。

6. 飯田ビジネスネットワーク支援センターの運営状況について

(1) 企業の営業力強化支援

第12回機械要素技術展をはじめ営業活動を行いながら、営業力強化の支援を行い、優良顧客獲得に努めました。

また、先端技術を知っていただくための取り組みとして太陽電池展及び燃料電池展等の見学や事業展開を実施、マーケティングの強化など経営に関する講演会も随時行いました。

(2) 受注開拓営業

年間7回の全国各地の展示会への出展や優良企業への個別訪問を行いながら、より多くの新規受注が獲得できるように積極的な活動を行いました。

(3) 他企業との連携

食品企業3社の工場を視察し、食品企業の要望に応じて設備装置の開発や工程改善の提案等を進めています。

(4) モバイル参入会設立

自動車産業分野への新規参入としてモバイル産業参入会を9月に設立しました。

加入企業はアンケートにより14社で組織されこれからの自動車産業の参入にあたり大手企業とのコンタクトを築き上げ今後の活動で出展・プレゼン等に積極的に取り組みながら新分野への参入を進めています。

- ・中京圏への販路開拓情報交換会

9月3日 地場産業振興センター

24社 36名参加

講師：長野県中小企業振興センター 名古屋事務所 市川重己氏

元豊田合成(株) 購買部長 伊藤昭徳氏

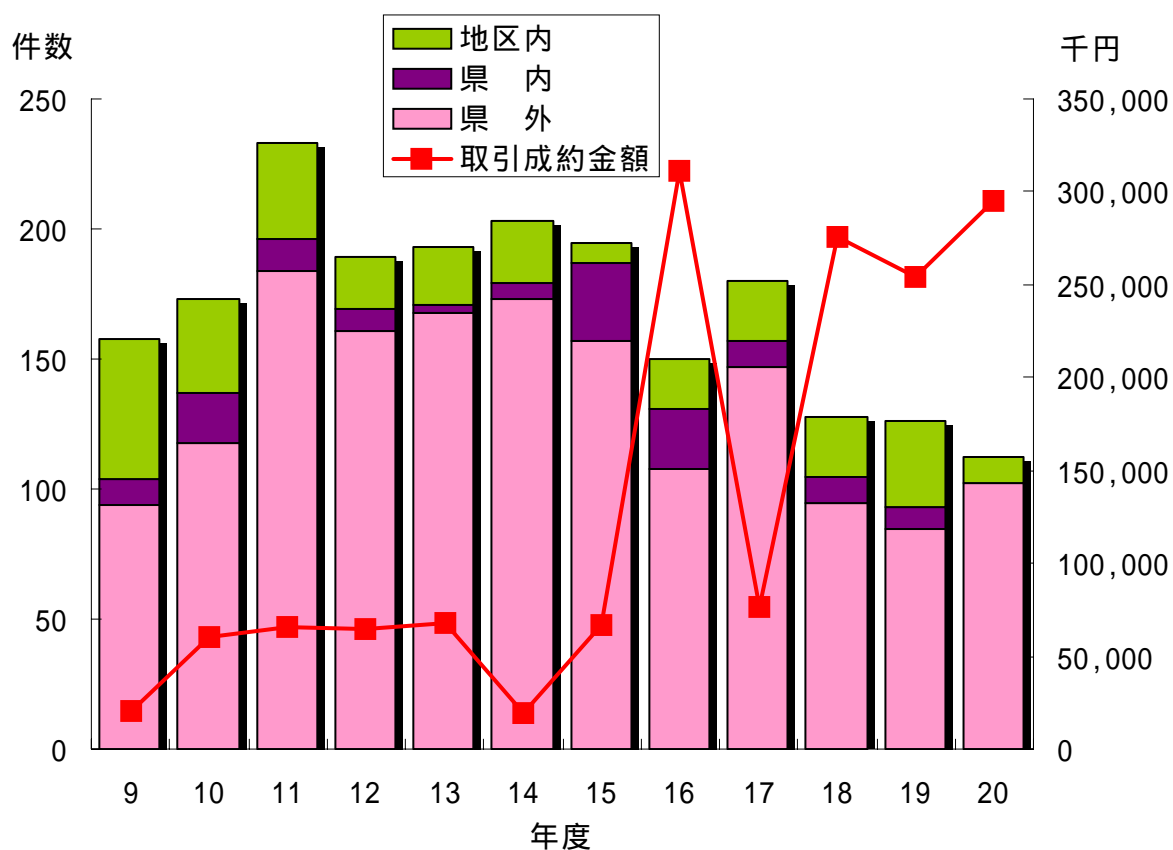


食品企業工場見学



第12回機械要素技術展

飯田ビジネスネットワーク支援センター年度別営業実績推移グラフ



飯田ビジネスネットワーク支援センター年度別営業実績の推移

年度	取引成約金額(千円)	引合件数	県外	県内	地区内	取引成約	成約率
9	20,280	158	94	10	54	21	13.3%
10	60,255	173	118	19	36	33	19.1%
11	65,844	233	184	12	37	20	8.6%
12	64,136	192	161	8	20	22	11.5%
13	68,208	193	168	3	22	25	13.0%
14	19,628	203	173	6	24	45	22.2%
15	66,684	195	157	30	8	40	20.5%
16	310,764	151	108	23	19	18	11.9%
17	76,558	181	147	10	23	28	15.5%
18	275,642	114	95	10	23	30	26.3%
19	254,294	126	85	8	33	16	12.7%
20	295,453	112	102	0	10	38	32.1%

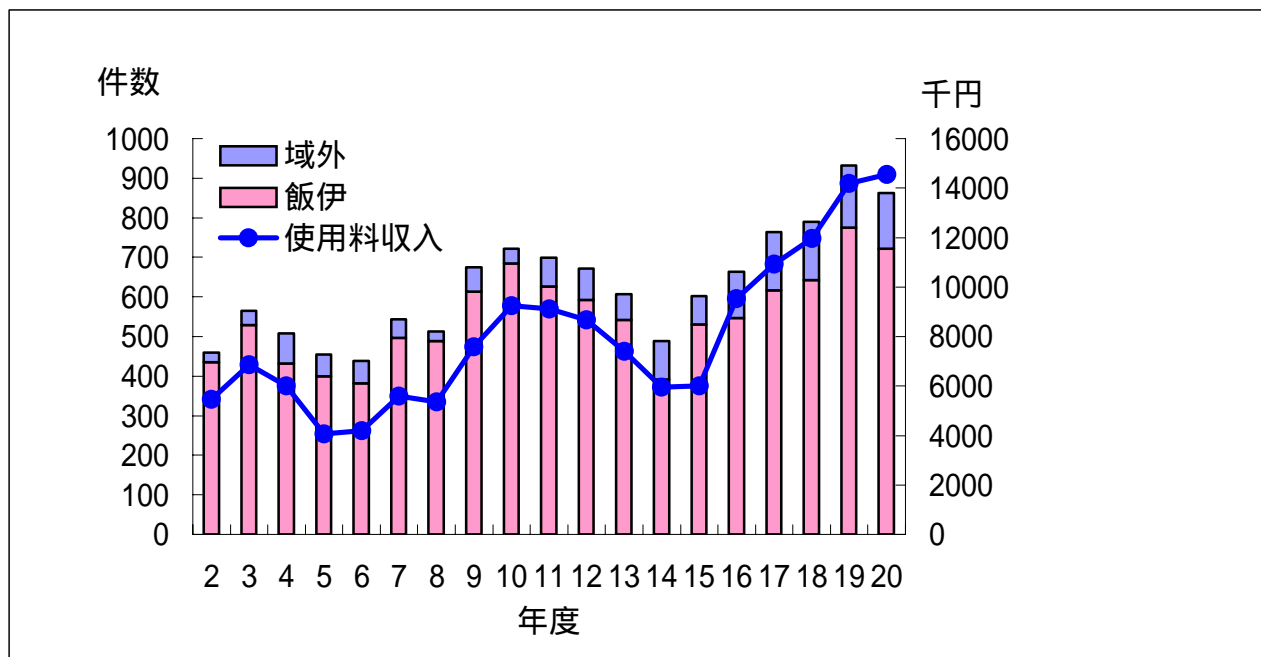
7.工業技術センター・EMCセンターの運営状況について

(1)工業技術センター

20年度は前年度に対し利用件数は減少しましたが、測定料金は増加しました。企業の製品不良対策、クレーム対策や企業の皆様が取り組んでいる新技術や新製品の開発研究を支援するため、依頼試験を行っています。内容は有機、無機機器分析、顕微鏡観察、校正試験(電気、測定機器)です。

最近の傾向として不具合原因調査や事故解析等々の緊急を要する案件のほか、特に開発関連の分析・相談が増えています。内容的には、微量金属・有機物・樹脂などの定性・定量分析、金属・樹脂等の破断解析、さらに臭気やガス成分等の分析依頼があり、機械金属関係だけでなく食品関係にも利用が広がってきています。これらは走査型電子顕微鏡& X線元素分析装置、FT-IR(フーリエ変換赤外分光光度計)、GC/MS(ガスクロマトグラフ質量分析計)等で評価し、原因究明及び対策を考える上で重要な解析分野に重点を置いた取り組みをしています。補助金によりFT-IRを最新機種に更新したことで、更に高精度な分析が可能になりました。

工業技術センター年度別利用推移グラフ



工業技術センター年度別利用の推移

年度	地域内	地域外	測定料収入(円)	年度	地域内	地域外	測定料収入(円)
3	529	35	6,872,047	12	593	78	8,664,980
4	432	76	5,999,244	13	542	65	7,408,560
5	400	55	4,058,817	14	392	96	5,944,465
6	382	56	4,194,572	15	531	71	6,004,105
7	496	47	5,593,445	16	547	117	9,530,230
8	488	25	5,354,318	17	616	147	10,926,385
9	614	60	7,581,930	18	642	147	13,310,805
10	685	36	9,239,201	19	775	157	14,192,410
11	626	73	9,101,935	20	721	142	14,562,665

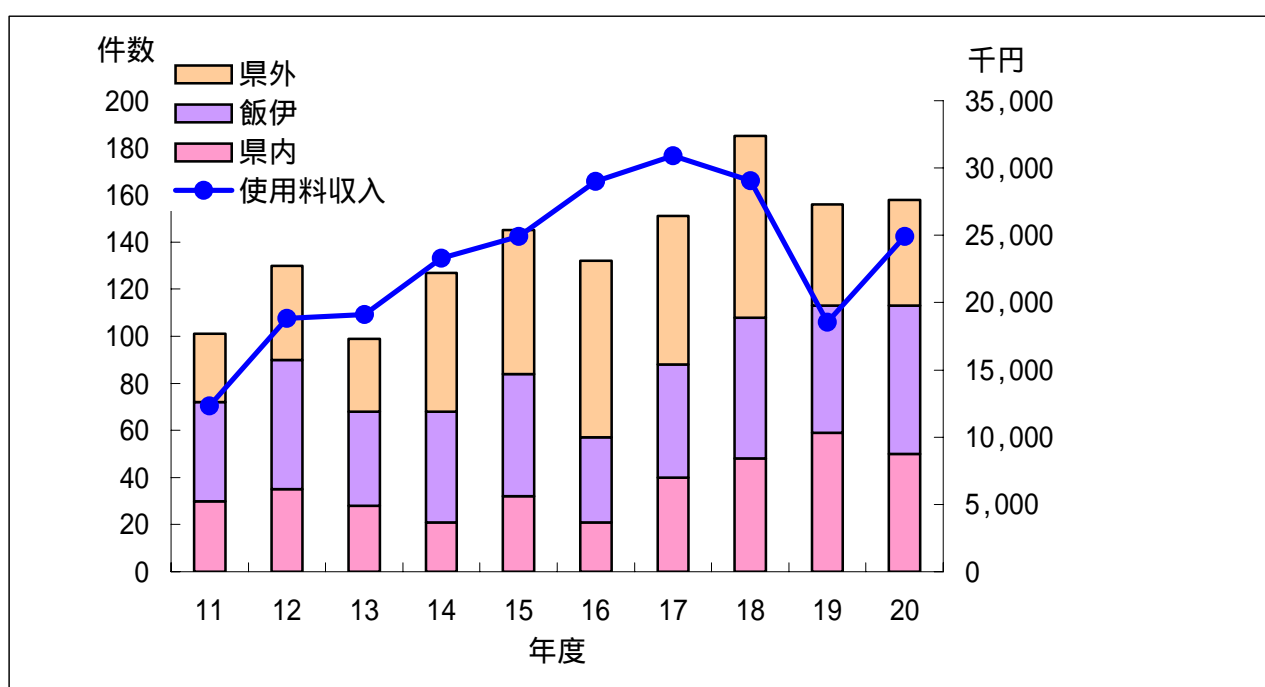
(2) EMCセンター

昨年と比較すると、利用件数、測定使用料ともに増加しました。2008年4月に使用料の改定を行ったことも増加の一因と思われます。電機・電子関係企業の利用が増え、20年度に初めて利用した企業が数社ありました。また、2006年1月より365日、24時間開放する体制を整えたことにより、土曜日の利用も増えました。

一部規格においてISO17025に準じた試験場認定を取得したことにより、自主測定だけでなく受託試験も受け入れ出来るようになりました。また、補助金によりEMIテストサーバーと試験ソフトを更新したことで、迅速且つ更に高精度な測定が行えるようになりました。

今後は、認定範囲の拡大や新しい規格への対応を行いたいと考えています。

飯田EMCセンター年度別利用推移グラフ



飯田EMCセンター年度別利用の推移

年度	飯伊	県内	県外	合計	使用料収入(円)
11	42	30	29	101	12,296,894
12	55	35	40	130	18,835,613
13	40	28	31	99	19,115,219
14	47	21	59	127	23,281,082
15	52	32	61	145	24,908,820
16	36	21	75	132	28,984,704
17	48	40	63	151	30,911,757
18	60	48	77	185	29,049,161
19	54	59	43	156	18,544,548
20	63	50	45	158	25,388,460

8 . 産業クラスター事業 (広域的新事業支援連携等事業費補助金)

(1) ネットワーク形成事業

周辺地域の産業クラスター推進機関及び拠点機関の連携強化

クラスターマネージャー 1 名、コーディネーターを 3 名 (航空宇宙 2 名・食農 1 名) 配置して、航空宇宙・食農産業クラスターの形成を目指し、三遠地域・中京圏への情報の収集、商談 P R、展示会出展等を行い、新たなネットワークづくりを行いました。

地元企業へのヒアリング

地元企業の現状調査と課題抽出を行いました。また、支部へのクラスター登録を促がしました。(68 社登録 内本年度実績 6 社)

(2) 新事業創出支援事業

飯田航空宇宙プロジェクト

実践的な活動を通して広域的な連携により、新事業にチャレンジしています。今年度は、WT 1 の活動に重点をおいて航空宇宙関連の川下企業に対して P J 活動 P R と営業活動を行いました。(コーディネーター 2 名を配置)

プロジェクト参加企業 25 社 プロジェクト活動 6 回

ワーキングチームによる活動 54 回

(WT 1 : 31 回、WT 2 : 7 回、WT 3 : 6 回、WT 4 : 10 回)

WT 1

幹事会社を中心に航空宇宙大手企業へのアプローチ営業と具体的な受注を行っています。

・大手企業へのアプローチ営業

航空宇宙関連 9 社 12 回訪問

航空宇宙関連以外 2 社 2 回訪問

・大手企業による会員企業視察

4 社 4 回来飯視察

・共同受注関連

量産受注件数 1 件 16 点

試作受注件数 4 件 16 点

見積もり段階 2 件 2,823 点

引合い検討段階 3 件 387 点

WT 2

J I S Q 9100 認証取得を目指し、セミナー等を共同で開催しました。

・ J I S Q 9100 認証取得企業数 4 社 (通算 5 社取得)

・セミナーの開催

Q M S 特殊工程セミナー

8 月 28 日 14 社 26 名参加

講師：三菱重工業(株)名古屋誘導推進システム製作所 主席 滝本邦雄氏

J I S Q 9100 改訂セミナー

1 月 14 日 12 社 32 名参加

講師：B S K 菱田喜次氏

WT 3・4

・セミナーの開催

CAMWorksセミナー

5月20日 5社 5名参加

講師：(株)テクノソリューションズ

難削材加工セミナー

7月3日 18社45名参加

講師：サンドビック(株)

ワイヤカット放電加工セミナー

2月12日・19日・26日、3月5日・12日

5回開催 7社7名参加

講師：(有)アイエス精工 伊澤和明氏

フォーラム・講演会

・飯田航空宇宙フォーラム2008の開催

10月21日 地場産業振興センター

32社(内浜松支部7社15名) 88名参加

講師：(株)IHI 航空宇宙事業本部 技師長 山崎 潔氏

多摩川精機(株) 代表取締役社長 萩本範文氏

多摩川精機(株) スペースロニックス研究所 熊谷秀夫氏

他地域への航空宇宙関連の情報収集、研修会等の活動を積極的に行いました。

・フォーラム 1回参加

11月28日 第1回航空宇宙フォーラム(名古屋)

・シンポジウム 5回参加

5月15日 難加工シンポジウム(名古屋)

10月3日 装備品フォーラム・まんでんPJ(横浜)

11月28日 名古屋航空宇宙シンポジウム

11月29日 航空宇宙産業技術パネルディスカッション(名古屋)

2月10日 航空宇宙関連産業交流シンポジウム(諏訪)

・セミナー 4回参加

8月27日 航空宇宙次世代加工セミナー・マザック(岐阜)

9月22日 航空宇宙参入支援セミナー・ボーイング(大阪)

10月2・3日 国際航空宇宙展(横浜)

2月5日 航空宇宙ビジネスセミナー(浜松)

・展示会出展 5回出展

5月15日 難加工展 パネル展示(名古屋)

6月4日 ISTS ブース展示(浜松)

10月2・3日 国際航空宇宙展 パネル展示(横浜)

11月27日 航空宇宙産業技術展 パネル展示(名古屋)

12月2・3日 クラスタージャパン ブース展示(横浜)

専門家派遣事業

新産業分野に対して、企業の持つ技術・経営の課題について専門家を派遣しました。
アドバイザー 2名 3企業×1回

(3) 連携促進事業

農工商交流事業

海外市場開拓研究会を立ち上げて、海外（台湾・中国）の情報収集活動を展開しました。（コーディネーター1名を配置）

海外市場開拓研究会 4回開催

5月12日 地場産センター 第1回

講師：(株)マイナック 代表取締役 市瀬和繁氏

友士有限公司 食品部門長 中村知義氏

5月17日 地場産センター 第2回

8月7日 地場産センター 第3回

12月26日 シルクホテル 第4回

講師：(株)マイナック 代表取締役 市瀬和繁氏

台湾コーディネーター 酒井隆夫氏

台湾商社招聘

台湾日系商社 友士有限公司 中村知義氏

5月12日 食品企業2社訪問

5月13日 食品企業5社訪問

5月14日 食品企業4社訪問

台湾百貨店への出展 5社参加

4月 台湾SOGO復興店地下2階 南信州物産展

11月 台湾SOGO忠孝店地下2階 南信州和菓子コーナー

上海展示会の視察

7月24・25日 第2回日本食品展示商談会in上海への視察

5社 6名参加

広域交流

三遠南信連携事業 豊橋の食農産業クラスターへ参加

豊橋食農産業クラスターフォーラム

日時：10月30日

会場：サイエンス・クリエイト(豊橋)

(4) 販路開拓事業

クラスタージャパン2008

日時：12月2日(火)～3日(水)

会場：パシフィコ横浜展示ホールA

三遠南信バイタライゼーションとして、ブース横並びで浜松支部と出展、航空宇宙産業クラスターの取り組みを中心にPRを行いました。

9．南信州産業活性化事業

企業立地法(平成19年6月11日施行)に基づく、産業集積の形成または産業集積の活性化に関する基本計画「南信州企業立地促進基本計画」に基づき関係市町村による立地に関する会議を行いました。

また、関連して地域企業立地促進等共用施設整備費補助金によりEMCセンター及び工業技術センターへ分析機器装置を導入することができました。

10．その他

全国地場産業振興センター協議会

理事長が協議会会長を務め、事務局として次の事業を行いました。

- ・幹事会開催(東京都) 4月22日
- ・総会(金沢市) 7月10日、11日
- ・経済産業省(中小企業庁)へ陳情及び懇談意見交換 8月4日
- ・地場産業振興センター役職員研修(東京都) 11月18日、19日
- ・全国中小企業活性化シンポジウム(後援)(東京都) 12月11日、12日